

第29回「Qの会」
研修会報告

10月20日香川大学において「Qの会」第29回研修会が開催されました。今回のメインテーマは「行動変容につなげるコーチング活用」で、講演と困難事例に対してコーチングを用いてロールプレイを行いました。講演は、済生会西条病院の糖尿病専門医金子由梨先生をお迎えし「コーチングの「質問」で治療同盟を強化する」患者さんとの関係性を変えてみませんか？」というテーマで、コーチングの基本を学びながらグループフォームでの参加型の研修が行われました。講師の質問にグループフォームで答え集約することで、他の受講者との意見の違いや気づきが共有でき、コーチングをより理解することができました。また、ロールプレイでは、患者・看護師役と観察者となり、プレイ後それぞれ気持ちや思いを振り返りました。コーチングを意識することで、患者の立場や考えを尊重し、言葉や内容を選びながら提案や承認ができました。

研修会アンケート結果
第29回研修会参加54

名のうち45名よりの回答をいただきました。講演について、「仕事のいろいろな場面で活用できるコーチングでありとてもよかったです。グループを使っての参加型なので面白かったです。」など良かったと言った意見と「内容ではなくスマホを持っていないため、研修を受けても楽しくありませんでした。」という意見もありました。グループディスカッションについて「ロールプレイすることでいろいろな意見・考えが分かった。話し合いがなかなかまとまらず時間が足りなかった。」「コーチングを意識した言葉やなげかけることでも相手も変わることに分かりました。」という意見がありました。今後の研修会のテーマについて「香川県の糖尿病の現状（健診結果などから）」「がんと糖尿病」「妊娠と糖尿病」「糖尿病セクシャリティ」などたくさん意見がありました。アンケート結果を参考にし、より良い研修会にしていきたいと思



香川県糖尿病療養指導士看護ネットワーク「Qの会」第30回研修会・2020年度総会のご案内
毎年6月に開催させていた

中止させていただきます。今年度は、秋の研修会を1日研修で計画しております。

学会・研修会のご案内

認定更新のための研修単位が取得できる予定の研修会をお知らせします。

★第8回日本糖尿病療養指導学術集会・・・今年度は中止

★第3回中四国糖尿病療養指導スキルアップセミナー・・・第1群または第2群2単位
日時：2020年7月19日（日）

場所：岡山コンベンションセンター

★第25回日本糖尿病教育・看護学術集会・・・第1群または第2群 4単位
日時：2020年9月19日（土）～20日（日）

場所：盛岡市民ホール

★日本糖尿病学会中国四国地方会第58回総会・・・第2群4単位
日時：2020年10月2日（金）～3日（土）

場所：サンポートホール高松

★新型コロナウイルスの影響で中止・延期の研修会・学会もごさいますので、ご自身でご確認ください。

「託児所設置について」

坂出市立病院 糖尿病看護認定看護師 松内香織

糖尿病療養指導士などの資格の更新のためには、研修会や学会参加が不可欠です。子育て中の看護師が研修会に参加するためには、ポジティブアクションの一つとして託児所の設置があります。いくつかの学会では託児所の設置をすでに行っており、今回Qの会も託児所設置を試みました。託児所の費用はQの会が負担し、障害保険代金のみを利用者の負担としました。

初回は数名の託児利用者がおり、研修会に託児所を設置することの意義はあったと思います。10月は半日研修だったため、託児の時間も短く、特に問題なく終了することができました。6月は1日研修であり、研修時間が長くなると子供たちが託児所で昼食をとったり、小さい子供はお昼寝が必要になってくると思われま。昼食用のテーブルやお昼寝布団の準備など、まだまだ課題はたくさんありますが、利用しやすい託児所にするためにみなさんの意見を聞きながら改善していきたいと考えています。託児所に関する要望やご意見がありましたら、Qの会スタッフまで気軽にお声掛けください。



◆編集後記
新型コロナウイルス感染症の拡大により、個々の病院では、深刻な感染防止対策に追われる日々が続いていると思います。長期戦の様相となり、医療者の疲弊が問題になっていきます。皆様もお体に気を付けてください。
木村裕美・串田久美

発行所 香川県糖尿病療養指導士看護ネットワークの会
http://www.qnkaikai.org

糖尿病 Q の会 高松市立みんなの病院紹介

日下 由美子

2018年9月に高松市民病院から「高松市立みんなの病院」に名称を変更し、仏生山に移転しました。2年目の2019年度は、令和を迎え、患者さんからも親しみを込めて“みんなの病院”と呼ばれることが、ようやく定着してきたと実感しています。

当院は、「生きる力を応援します」という基本理念のもと、急性期病院としての役割に加え、地域包括ケア病棟設置により在宅医療への橋渡しも行っています。そのため、患者さんの背景も様々です。

当院では、糖尿病療養指導士の資格を有する職員が、看護師9名、管理栄養士2名、薬剤師1名在籍しています。糖尿病患者チーム会では、それらの職員が中心的な役割を担っています。チーム会では、糖尿病に関するヒヤリ・ハット事例の分析、症例検討、職員対象の院内研修、糖尿病教室など、それぞれコメディカルの目線で意見を出しながら運用しています。また、療養指導の充実を図るため、糖尿病療養指導士（看護師）が、糖尿病患者さんの療養指導を外来で実施した際、指導力のスキルアップが出来るよう指導方法や内容の評価も行なっています。

2019年度は、フットケアにも力を入れていこうと、5名の看護師が香川県看護協会で開催された糖尿病重症化予防研修に参加しました。当院では、複数の合併症を持っている患者さんが多く、専門性の高い良質な医療が提供出来るよう準備をしているところです。

今後も市立病院として、糖尿病患者さんの QOL 向上のため、より一層チーム力を発揮していきたいと思えます。

